

編集後記

2024年度より日本集中治療医学会雑誌の編集委員を拝命いたしました。貴重な機会をいただき、大変光栄に思います。定期発行から随時発行への移行に伴い、編集後記も配信形態が変わりました。ここで、ご投稿を募集していますとお話をしたいところですが、今回は査読をお願いしますというお話を。

編集委員の仕事の1つに査読の打診があるのですが、諸先輩方に査読を打診するのは恐れ多いもので、査読打診の決定ボタンを押す手がいつも震えます。しかし正直に申しますと、この原稿にどのような査読を返してくれるのか読んでみたいという純粋な好奇心もあります。私が初めて査読をしたとき、自身の査読内容にとても不安を感じたものです。査読コメント提出後に他の査読者のコメントを拝読し、自分と同じ指摘をしているのを見て、安堵で胸を撫で下ろしたのを覚えています。編集委員をしていて諸先輩方の査読コメントを拝読し、非常に勉強になるのを痛感します。

査読をし、他の査読者のコメントと比較していくと、論理的思考や洞察力が鍛えられていくのを感じます。それは臨床のときも、論文を書くときも、また若手

に論文指導をするときにも必ず活きてきます。投稿者とともに良質な論文を作り上げ、世に出していく作業には夢もあります。若い先生方はぜひ、打診されたら積極的に査読に挑戦してみてください。そして諸先輩方も、投稿者だけでなく若手査読者の教育も含め、温かい気持ちで査読を受けてくださると幸いです。

(文・川上 大裕)